



人権マガジン

2017年6月

学校は楽しい？ いじめや不登校をなくそう

新学期が始まりました。初めての学校へ進学した人、新しい学年に進級した人、それぞれ新しい学校生活が始まりました。

「今日は何して遊ぼうか？」「今日の給食は何だろう？」「今日はどんなことを教えてくれるかな？」—。子どものころ、ワクワクしながら学校へ行った人も少なくないと思います。どの子にも学校へ行くことは楽しいことであってほしいものです。しかし、残念ながらそうでない子どもたちもいます。登校するのが気が進まない、行きたくない、おなかが痛くなるなど、その仔のつらさに思いを寄せてみましょう。

いじめ22万件以上、県内でも500件 文科省が発表



昨年10月に文部科学省が発表した調査（平成27年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」速報値）によると、全国の小中高・特別支援学校でのいじめ認知件数は22万4540件だったことが明らかになりました。内容（複数回答）は「冷やかす・からかい・悪口・脅し文句・いやなことを言う」が最多で63.5%、二位が「軽くぶつかられる・遊ぶふりしてたたかれる・

蹴られる」22.6%、三位が「仲間はずれ、集団での無視」17.6%の順でした。パソコンや携帯電話などによるいじめも9149件（4.1%）ありました。そのほか、「金品を隠されたり盗まれる」、「恥ずかしいことや危険なことをされる」ということなども起きています。

また、不登校者は小中学校で12万6009人、高等学校で4万9591人でした。不登校とは病気や経済的理由ではなく、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景によって登校しない、あるいは登校したくてもできない状態を意味します。

香川県内のいじめ認知件数は495件（小学校215件、中学校184件、高等学校92件、特別支援学校4件）でした。そのうち解消したのは470件で、残りは調査時点でまだ解消していません。いじめ発見の主なきっかけは教職員によるものが117件、本人からの訴え

が110件、保護者からの訴えが186件などでした。県内の不登校者は小中学校で1002人（小学校159人、中学校843人）、高等学校で269人です。

相手のつらさに気づいてほしい



「いじめはダメ」と言うだけではなかなか解決しません。

「尾木ママ」と呼ばれる教育評論家で大学教授の尾木直樹さんは、次のような対応を呼びかけています（朝日新聞2015/11/5）。

「それはいじめだ、と言ってもほとんどの子が認めない。ふざけているつもりの子が圧倒的に多い。だからいじめという言葉を使わず、相手の子のつらさを理解させる

ことが大事。苦しんでるんだよ。だからやめようよ、君ならできるよ」と、相手のことに気づき、納得したうえで申し訳ないと理解させるように対応することをアドバイスしています。